

(様式1-3)

国見町定住緊急支援事業計画に基づく事業等個票

平成25年7月時点

本様式は1-2に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	1	事業名	国見小学校屋外運動場遊具整備事業	事業番号	A-1-1
交付団体	国見町	事業実施主体	国見町		
総交付対象事業費	18,802(千円)	全体事業費			18,802(千円)

事業概要

国見町では、これまで5つの小学校で教育活動を行っていたが、平成24年度に国見小学校一校に統合し、適切な教育環境の中で人材を育成するため教育の充実に努めている。

国見小学校校庭は、町内一校ということもあり、放課後や休日には、常に開放し親子連れの利用も多く、毎週スポーツ少年団やPTA活動(スポーツ大会等)で利用されている。

また、小学校の児童クラブ(学童保育)が近接するため放課後多くの児童が安全に遊ぶ場所となっているが、震災や特に原発事故による放射線の問題で、幼児・児童の屋外活動が制限されたことにより、平成24年度の肥満度や運動能力は全国平均や福島県平均を比較しても、本町児童の低下が顕著に見られた。

このことから未来を担う児童の健康、体力の向上を町の重点として取り組むことが喫緊の課題となっている。

このため、国見小学校校庭に子ども達が自ら興味を持って遊ぶことができる、斬新な遊具や真新しい鉄棒・雲梯等を設置更新することにより、幼児や小学生が休日・放課後において、自から外遊びをする機会を増やし、さらに教育活動 昼休み 放課後の運動量の増加を図ることで、遊びを通して本町の児童の体力向上を目指す。そこで小学校では、学年に応じた遊具(鉄棒、雲梯)種目の運動目標を設定し、校庭に目標版を設置して学校全体で取り組みを考えている。

特に子ども達に必要なことは、遊びながら楽しく体(体力)を作ることであり、子ども本来の姿と考えている。

今回、ジャングルジムを更新する遊具「マイロ」は、遊びの欲求を満たす遊具であり、アスレチック的な面や、見て・触れて楽しむ、児童にとって柔軟な想像力を刺激し、無限の遊びを生み出すものと考えている。

興味を持ち意欲的にチャレンジできる遊具を設置することにより、1~6年生の教育機会や遊びを通しての交流、運動の種類やルールを学びながら遊びの量や質を高め、運動量の向上を図ることとしたい。以上の理由により、本町において、このような機能を持つ遊具は、今の子ども達にとって必要な遊具と考えている。

また、この遊具「マイロ」を設置することで、「子育ての場」「地域のコミュニケーションの場」など、子ども達がにぎわうことは、「人」「街」が元気になるとも考えられます。

当該事業を復興ビジョン、復興計画、復興プラン等に位置付けている場合は、該当箇所及び概要も記載してください

人口の流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係

国見町は、放射線量が西部や北部の一部で高く、震災に伴う人口の流失がとりわけ多く、特に出産年齢層や乳幼児を抱える世代の町外避難が顕著に見られた。児童の減少により小学校の統合を24年度に一校に統合した。

22年3月住基人口10,402人 23年8月10,235人167人の減

24年1月避難者数調査 避難者総数191人うち18歳未満57人(幼児~小学生45人)

(22年3月住基人口10,402人と24年1月避難者総数191人は1.836%となります。)

震災・原発事故により子育て世代が自主避難している。原発事故により屋外運動等が制限された影響は大きい。現在でも屋外での遊びや活動が少なくなっているため、遊具の整備や運動施設充実により、『遊び』を通して体力増進を図ることができると思われる。

また、学校教育活動において、安心して遊びや運動を行い、肥満度の減少・体力の向上が進むと共に教育の充実や安心度を通して、定住や避難先からの帰省も期待できる。

効果促進事業である場合には以下の欄に記載。

関連する基幹事業	
事業番号	
事業名	

交付団体	
基幹事業との関連性	